

第15回田尻賞表彰式

2006年7月9日(日)14:30～17:00

主婦会館プラザエフ8F スイセン

田尻宗昭記念基金

〒136-0071 東京都江東区亀戸7-10-1 Zビル5階

TEL 03 3636-3882/FAX 03 3636-3881

開会

選考の経過(鈴木武夫世話人代表)

表彰状等授与

受賞者スピーチ

・古川和子さん

・「水俣」を子どもたちに伝えるネットワーク(代表 田嶋いづみ)

記念講演「アスベスト問題の到達点と課題」

・古谷杉郎(基金事務局、石綿対策全国連絡会議事務局長)

閉会の辞

懇親会(17:00～18:00 8Fパンジー、参加無料)

田尻宗昭記念世話人 会計監査

世話人代表：鈴木武夫(元国立公衆衛生院院長)、安東宏祐、宇井純(沖縄大学名誉教授)、加藤彰紀(大規模林道問題全国ネットワーク)、木下泰之(世田谷区議)、車谷典男(奈良県立医科大学医学部教授)、斎藤竜太(社)神奈川労災職業病センター理事長、酒井一博(財)労働科学研究所常務理事、清水文雄(エネルギージャーナル)、塚谷恒雄(京都大学経済研究所教授)、天明佳臣(全国労働安全衛生センター連絡会議議長)、土井たか子(元衆議院議長)、永井進(法政大学経済学部教授)、原田正純(熊本学園大学社会福祉学部教授)、平野喬(財)地球・人間環境フォーラム、村田徳治(循環資源研究所所長)、事務局長：古谷杉郎

会計監査：古川景一(弁護士)、西畠正(弁護士)

第15回田尻賞のお知らせ

田尻宗昭記念基金

〒136-0071 東京都江東区亀戸7-10-1 Zビル5階
TEL 03 3636-3882/FAX 03 3636-3881

海の男として出発し、公害Gメンの名で全国各地の反公害・環境保全と労働安全衛生運動の人々に親しまれた田尻宗昭さんが亡くなったのは1990年7月4日のこと。田尻さんの活動の精神を伝えようとはじまった田尻賞も、第15回目を数えることになりました。第15回田尻賞は、以下の1個人・1団体にお贈りすることに決定いたしました。

第15回田尻賞表彰式は7月9日(日)午後2時30分から東京・四谷の主婦会館プラザエフで行います(別掲案内図参照=無料)。受賞者の生の声を是非お聞き下さい。今回は、別掲のような記念講演も予定されています。また、式後には懇親会ももたれます。奮ってご参加下さい。

- ・アスベスト被害者・患者のために奔走されている古川和子さん
- ・「氷俣」を子どもたちに伝えるネットワーク

第15回田尻賞受賞者

- ・アスベスト被害者・患者のために奔走されている古川和子さん

昨夏のクボタ・ショックによって日本社会は初めて、アスベスト被害と正面から向かい合うことになったと言っただけで、その原動力は被害者とその家族が立ち上がり、声を上げたことであった。

古川和子さんが、電力会社の下請けの設備工事作業に従事した夫・幸雄さんをアスベストがんで失ったのは2001年3月28日のこと(享年60歳)。約15か月の闘病・看護に加え、労災不支給決定・不服審査により死亡約1か月前に逆転認定、病理解剖による診断名の中皮腫から肺がんへの変更等々、アスベストがんの患者と家族を襲うほとんどすべてのことを経験した。

自らの経験も生かして同じアスベスト被害に遭った人たちの手助けすることが夫への供養と考えた古川さんは、各地の被害者・家族と知り合い、連絡を取り合いながら2004年2月に「中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会」を設立する中心メンバーのひとりとなった(現在、副会長)。2004年11月の2004年世界アスベスト東京会議で世界各地のアスベスト被害者・支援団体の参加者と顔を合わせた交流ができたことは日本の被害者・家族の運動にとって大きな励ましと刺激になったが、古川さんが尼崎のクボタ旧神崎工場周辺の最初の住民中皮腫患者に出会ったのもまさにその準備期間中のことだった。

古川さんは、同工場周辺の聞き歩き等を通じてさらに二人の中皮腫患者を探り当て、彼らが大企業を相手に立ち向かうのをサポートした。クボタ・ショックの文字どおりの火付け役。2003年秋頃から関西労働者安全センターの事務所を拠点に活動を始めたときは月一回程度の相談対応だったが、全国各地から患者・家族の支援を求める声が殺到するなかで、「すぐ会いに行く」を基本スタイルにした古川さんの、関西、中国、九州を中心に各地を駆けめぐる日々は今も続いている。

尼崎のアスベスト公害患者の数は百名を超え、昨年10月に患者と家族の会尼崎支部を結成。12月25日には、尼崎支部の集まりにクボタの社長以下幹部が出席して「謝罪」、患者・家族、支援団体代表との精力的な交渉を経て、今年4月17日に「救済金支払い規程」の骨子について合意に達したことを発表するに至った。古川さんは、この交渉メンバーのひとりでもあり、「クボタとの合意は、すべてのアスベスト被害者に公正な補償を実現していくための出発点、これからが本当の正念場」と語る。

豊富な人生経験と被害者家族としての経験、根性と人柄で患者・家族のまとめ役としてクボタ・ショック後の事態を常にリードしてきた古川さんの役割は、「命がけでやる人間が一人いれば運動は必ず前進する」という故田尻宗昭さんの言葉を彷彿とさせるものである。

〒540-0026 大阪府大阪市中央区内本町1-2-13 関西労働者安全センター
TEL (090) 3705-3903

・「水俣」を子どもたちに伝えるネットワーク(代表 田嶋いづみ)

「水俣」を子どもたちに伝えるネットワークは、水俣・東京展(1996年)、水俣・豊橋展(1998年)、水俣・浜松展(1999年)を契機に、「水俣」の事実に触れ、さらに子どもたちに「伝える」という作業によって、いのちや暮らしについての問題意識や共感を育ててきた人々によって2000年4月に設立された。それぞれの水俣展の経過と出会いに支えられ、首都圏窓口として相模原に窓口を置いたほか、豊橋窓口、浜松窓口にて活動を開始。市井に住まう一市民の立場より、「水俣」に深く向き合い、ひとりでも多くの子どもたちにこの事実を伝えていくこと、そして、水俣病を二度と起さないために、事実をよく知り同時にその被害者となった患者さんやその家族の皆さんの力を借りて、いのちとは何か、これからをどう生きていくか、何を人の幸福とするか、子どもたちに呼びかけ、未来を見つめていくことを目的としている。キーワードは、「希望」。

のべ130箇所を数えている小中高校等への出前授業を中心に、現地学習、教材収集、資料作成やホームページや機関紙「ネット・インフォメーション」を通じた広報・宣伝などがその活動の内容。活動の経過や今後の展望等をまとめた「市民がひらく「水俣」出前授業」というブックレットが2006年3月に発行されている。

代表の田嶋いづみさんは、「「水俣」を伝える活動といふかたちで、子どもたちと向き合うようになって、自分たち自身も鍛えられたと思っています」と語っている。「子どもたちと自分たち、社会を結ぶことで、多様な「学び」の可能性が生まれてきたと同時に、市民としての課題への気づきももらいました。すなわち、「伝える」ということは私たちがみずからの生とくらしを問い、市民社会に参加していく作業だということに気づいたのです。ここに至り「水俣」を伝えるということは、「水俣」の意味を深くさぐり、自分の街、自分のくらしに還元していくことに他ならない、「街づくり」そのものと考えようになっています。水俣に地縁も血縁も持つものではない私たちが、しかし、「水俣」は、自分のくらしこの街のことと知ったとき、水俣病患者のみなさんに寄り添う生き方も見出せるようにも思えるのです」。

自分の街、くらしの場で、すこしづつ市民が生き方を変えていくなら二度と水俣病事件を起こさない社会にたどりつくこともできるだろう。これは、社会的財産の体験を市民社会が継いでいく試みでもある。

〒228-0803 神奈川県相模原市相模大野9-6-8 TEL(042)748-9902
ウェブサイト:http://homepage2.nifty.com/tutaelu_net/

記念講演 「アスベスト問題の到達点と課題」

古谷杉郎(基金事務局、石綿対策全国連絡会議事務局長)

アスベスト問題は、故田尻宗昭さんが晩年に取り組んだ中心課題のひとつ。学際的なアスベスト研究会を組織して「アスベスト対策をどうするか」を出版したり、労働組合や市民団体等によって1988年に設立された石綿対策全国連絡会議の代表委員の一人にも就任し、縦割り行政を乗り越える総合対策の確立を提唱した。クボタ・ショックから1年が経過し、わが国のアスベスト対策はどうなったのか。また、地球規模でみた問題点も含めて、その到達点と残された課題について考えたいと思います。

第15回田尻賞表彰式・懇親会

表彰式 / 2006年7月9日(日)午後2時半～5時

参加無料

主婦会館プラザエフ8F スイセン

懇親会 / 2006年7月9日(日)午後5時～6時

参加無料

主婦会館プラザエフ8F パンジー

会 場 / 東京都千代田区六番町15

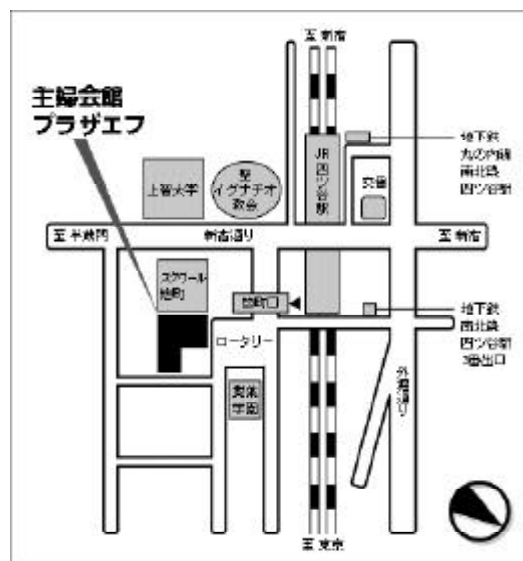
TEL03-3265-8111

JR 四ッ谷駅麹町駅口徒歩1分

地下鉄(丸の内線 南北線)

四ッ谷駅徒歩2分

<http://www.plaza-f.or.jp/index3.html>



田尻宗昭記念世話人 会計監査

世話人代表：鈴木武夫(元国立公衆衛生院院長) 安東宏祐、宇井純(沖縄大学名誉教授) 加藤彰紀(大規模林道問題全国ネットワーク) 木下泰之(世田谷区議) 車谷典男(奈良県立医科大学医学部教授) 斎藤竜太(社) 神奈川労災職業病センター理事長) 酒井一博(財) 労働科学研究所常務理事) 清水文雄(エネルギージャーナル) 塚谷恒雄(京都大学経済研究所教授) 天明佳臣(全国労働安全衛生センター連絡会議議長) 土井たか子(元衆議院議長) 永井進(法政大学経済学部教授) 原田正純(熊本学園大学社会福祉学部教授) 平野喬(財) 地球・人間環境フォーラム) 村田徳治(循環資源研究所所長) 事務局長：古谷杉郎

会計監査：古川景一(弁護士) 西畠正(弁護士)

田尻宗昭記念基金事業規約

1. 趣旨 故田尻宗昭氏の公害および労働安全衛生関係等での功績を長く私たちの記憶にとどめ、かつ、今後新しくこの分野で働く人々に田尻氏の生涯にわたる活動の精神を伝えるために田尻宗昭記念基金を設ける。
2. 基金 基金は個人または団体の寄付によって維持される。
3. 運営 基金運営と会計監査のため適当数で構成する世話人と若干名の会計監査を設ける。
4. 顕彰 田尻賞を設け、環境および労働安全衛生をはじめとした様々な分野で、社会的不正義をなくすために熱意ある取り組みをされている個人・団体の活動を顕彰し助成する。顕彰対象の国籍は問わない。
5. 選考 田尻賞の対象は、一般公募及び推薦による候補の中から世話人会が選ぶ。受賞者は原則として毎年7月、故人の命日前後に公表し、表彰する。

田尻宗昭記念基金募金のお願い

郵便振替口座 00110-7-752973 田尻宗昭記念基金
みずほ銀行三田支店「普」3122368 田尻宗昭記念基金

田尻賞のこれまでの受賞者

- 第1回 (1992年) ・三島 沼津コンビナート反対運動等に取り組む西岡昭夫さん
熊本県天草のじん肺、火電建設反対に取り組んだ故高戸勇さん
三重県古和浦地区で海洋汚染防止活動に取り組む岩崎義男さん
- 第2回 (1993年) ・新潟水俣病に取り組む齋藤恒さん
・巨大開発に抵抗した元青森県六ヶ所村村長の寺下力三郎さん
神奈川県横浜市の外国人労働者みなとまち健康互助会
- 第3回 (1994年) ・宮崎県の土呂久鉱山公害被害者の会など土呂久公害関係6団体
鹿島地区公害対策協議会事務局長の牛木真太郎さん
・広島県三原地区で海洋汚染防止活動に取り組む土居康人さん
- 第4回 (1995年) ・元水俣病対策市民会議会長の日吉フミ子さん
和歌山市で低周波反公害の調査と公害被害者の医療に取り組む汐見文隆さん
香港で労災職業病被災者の発掘・救済に取り組む工業傷亡權益會
- 第5回 (1996年) ・「四日市公害を記録する会」の澤井余志郎さん
川崎市のカトリック神父エドワード・ブジョストフスキさん
山形県鶴岡市の元観測船船長 佐藤孫七さん
- 第6回 (1997年) ・スモン訴訟で活躍され、『弊害』の根源を追及された弁護士の故泉博さん
・四半世紀にわたり自動車公害問題と取り組んでいる東京都杉並区立富士見丘小学校PTA
公害特別委員会
・日本海での大量の油汚染事故を起こしたナホトカ号事故で、漂着した船首部分からの流出油
除去に懸命に取り組んでいる福井県三国町の雄島漁業協同組合も候補に選びましたが、ま
だ海がきれいになったという自信はない」と固辞されました。
- 第7回 (1998年) ・三池CO中毒患者家族の大牟田市の松尾恵虹さん
廃棄物対策豊島住民会議
・ジャーナリストとしてまた地域に密着した住民運動に取り組んでいる長野市の内山卓郎さん
沖縄の海でサンゴ礁の写真を撮り続けた故吉嶺全二さん
- 第8回 (1999年) ・チッソ水俣病患者連盟委員長だった故川本輝夫さん
名古屋の藤前干潟を守る会
・インド・ボパールの猛毒ガス流出事件被害者の救済に当たっているサムバグナ・トラスト
- 第9回 (2000年) ・核化学者で原子力資料情報室理事の高木仁三郎さん
横浜 金沢八景の東京湾を拠点に活動する『海をつくる会』
神奈川県横須賀の『じん肺・アスベスト被災者救済活動』
- 第10回 (2001年) ・カネミ油症被害を問い続ける矢野トコ・忠義夫妻
全国各地の海辺の荒廃を記録し続けている海の語り部川口祐二さん
・山形朝日連峰のブナ原生林を守り続ける 檜山の自然を守る会
・大分県佐賀関の神崎海岸を守り通した稲生享さんら元 大分新産都8号埋立絶対反対神
崎期成会」の方々
- 第11回 (2002年) ・韓国の源進職業病管理財団
大鵬薬品工業労働組合
元徳島県木頭村長の藤田恵さん
元中日新聞記者の故唐木清志さん
- 第12回 (2003年) ・環瀬戸内海会議
様々な市民運動で活躍する都職員の藤原寿和さん
- 第13回 (2004年) ・遠州灘海岸の自然保護に取り組む馬塚丈司さん
高尾山自然保護実行委員会
・ブラジルでアスベスト問題に取り組むフェルナンダ・ギアナージさん
- 第14回 (2005年) ・ダム反対運動をデータ分析で支援してきた嶋津暉之さん
知る権利ネットワーク関西(熊野実夫 代表)

故田尻宗昭さんの略史

- 本 籍 宮崎県
- 1928年 福岡市に生まれる。
- 1944年 宮崎県立宮崎中学校卒業。
- 1948年 高等商船学校 (静岡県沼津市)航海科卒業。
門司海員養成所教官を経て海上保安庁に入り巡視船船長などで李ライン警戒、北洋海難救助などに従事。
- 1968年 四日市海上保安部警備救難課長
石原産業、日本アエロジルの工場排水垂れ流しを摘発。公害事件で初めての刑事責任を負及、行政と産業界の癒着にメスを入れた。
- 1973年 美濃部東京都知事に請われて都公害局主幹に転進。同局規制部長として日本化学工業のクロム鉍滓投棄を明るみに出し、住民と労災被害者の救済に尽力。一方で、全国各地の公害 大規模開発反対運動と精力的に交流 支援。
- 1978年 国のNO₂環境基準緩和を「環境行政の後退」と厳しく批判、NO₂訴訟の先頭に立つ。
- 1979年 東京都公害研究所次長に就任、廃乾電池焼却による水銀汚染やダイオキシンなど有害化学物質による環境汚染に警鐘を鳴らす。
- 1985年 論文『タンカー事故防止対策と港湾計画』で東京工業大学から工学博士号を取得。
- 1986年 職員研究所教授を最後に東京都を去り 社団法人神奈川労災職業病センター所長に就任。米空母ミッドウェイのアスベスト廃棄物投棄を摘発、振動病被災者打ち切り反対、労災補償制度改悪反対闘争の先頭に立つ。
地方自治総合研究所委嘱研究員 (1989年3月まで)。
- 1989年 神奈川大学特任教授に就任。
- 1990年 全国労働安全衛生センター連絡会議初代議長に就任。

田尻さんは、公害や労災職業病の現場に必ず足を運ぶ行動の人であるとともに、公害研究委員会、日本環境会議、労災補償制度問題研究会のメンバーとして学際的活動にも熱心だった。東大をはじめ和光大、法政大、立命館大等の非常勤講師として教壇にも立ち、若い人々を魅了。アスベスト問題研究会を組織する一方で、東京湾フォーラムの発足にも力を発揮、社会党に政策を提言する会」にも積極的にかかわるなど、その活動は多岐 多彩だった。また、社交ダンスの名手であり、大のカラオケ好きでもあった。

その田尻さんが倒れ、入院したのは1990年2月、大腸ガンだった。患部を切除、経過は良好で退院。5月には念願の全国労働安全衛生センター連絡会議の設立を果たし、初代議長に就任した。しかし、ガンはすでに転移しており6月22日に再入院。ついに7月4日午後6時10分、転移性肝臓ガンのため永眠された (享年62歳)。

【編著書】『四日市死の海と闘う』、『公害摘発最前線』、『海と乱開発』、『油濁の海』、『羅針盤のない歩み』、『アスベスト対策をどうするか』、『提言東京湾の保全と再生』、『労災があぶない わたしたちの提言』等